



主な内容

- 2……人権擁護委員、人権週間の行事(ふれ愛コンサートなど)
- 3……ひまわり、国津の社の行事、かがやき催物
- 4……二次救急実施病院、甘口こうじみそづくり、まちの話題

発行/名張市企画財政部広報対話室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1 ☎0595-63-7402 ✉pr@city.nabari.mie.jp ㊚http://www.city.nabari.lg.jp

障害者が地域で自立して生活するために不可欠なのが、雇用の充実です。そのために市は、平成20年4月に「名張市障害者人材センター」を設置し、就労支援に努めています。しかし、景気低迷の中、企業の障害者雇用の状況が悪化していることもあり、障害者の特性にあった新たな雇用の場が求められています。

そんな中、平成21年2月に農業関係団体、福祉団体、市などが「名張市障害者アグリ雇用推進協議会(以下、「協議会」という)」を発足させ、障害者の農業分野での就労を目指しています。



障害者の雇用の場として期待される農業

協議会では、平成21年度から毎年、農業ジョブトレーナー養成研修会を開催し、障害者を受け入れる農家の負担を減らしたり、障害者の就労を支援したりする「農業ジョブトレーナー」を育成。現在、21人が登録しています。

協議会が主催する農業就労体験



農業就労を支援する農業ジョブトレーナー

これは、農業分野での「就業者の高齢化」「後継者、担い手の不足」「耕作放棄地の拡大」といった課題と、「雇用率が低い」「就労の選択肢が少ない」「工賃が安い」といった障害者雇用の課題がある中で、農業経営と障害者の労働力を結びつけようとするものです。

就労体験には、福祉事業所の利用者などが参加したり、収穫体験では、伊賀つばさ学園中学部の生徒が参加。農業の喜びや、楽しさを実感することで、就労先の一つとして「農業」を意識してもらおうとしています。

現在のところ、就労体験の受け入れ農家は増えているものの、農業分野での障害者の就労まで至っていません。協議会では、今後、農業ジョブトレーナーの活動機会を増やし、体験の充実やモデル雇用などに取り組んでいきます。

農業ジョブトレーナーは、福祉事業所の利用者などが参加したり、収穫体験では、伊賀つばさ学園中学部の生徒が参加。農業の喜びや、楽しさを実感することで、就労先の一つとして「農業」を意識してもらおうとしています。

障害のある人に農業の魅力を知ってもらいたい



農業ジョブトレーナー 羽鹿 秀仁さん(安部田)

農業ジョブトレーナーになろうと思ったのは、障害のある人にも農業の魅力を知ってもらいたいという思いからでした。

農業就労体験では、受け入れ農家とその日の作業について注意点を確認し、体験者に作業内容や安全な道具の使い方を説明した後、一緒に農作業をしています。障害のある人に話や説明をするときは、特別視しないということを心掛けています。当然、相手の状況を気にかけることは大切ですが、できる限り健常者と同じように接するようにしています。

農業にはいろいろな作業があるので、障害の程度に応じて可能な作業があると思います。まだ実際の就労には至っていませんが、まずは、就労体験などを通して農業の魅力や仕事をする事の喜びを知ってもらえたらうれしいですね。これからも、就労に向け、障害のある人と受け入れ農家の橋渡しをしていきたいと思っています。

農業ジョブトレーナー

障害者の農業就労を応援

12月3日～9日は障害者週間

市内には、心身に障害のある人が約4000人暮らしています。障害のある人は年々増加していますが、多くの人が、個性を生かし、働くことで自立しようとしています。

市は、農業団体や福祉団体などの関係機関と「名張市障害者アグリ雇用推進協議会」を設立し、障害者の農業分野での雇用、就業を目指しています。

今号では、協議会の取組みの一つである農業ジョブトレーナーの活動を紹介します。

☎産業政策室 63・76223
高齡・障害支援室 63・7591



▲受け入れ農家の田んぼで、福祉事業所の利用者が農業就労体験

▲農業ジョブトレーナーに見守られる中、収穫体験する伊賀つばさ学園の生徒